



～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

今年度も残り少なくなりました。1月末に三重県津市立みさとの丘学園を、2月始めに京都府亀岡市立亀岡川東学園を視察しました。すばらしい施設環境や取り組みで、大きな成果を出しています。先進校を参考にして、よりすばらしい学校となるように委員一同、意を新たにしました。

各部会の報告

「すごい！学校創造部会」

ブロック制、3校の交流、小中一貫教育のビジョンについて協議しました。

☆ブロック制については、児童生徒の心身の成長実態と学習効果を考え、これまでの6・3制（小学校1～6年、中学校1～3年）よりも小学校1年～4年までの4年間、小学校5・6年と中学校1年生の3年間、中学校2・3年の2年間をブロックに分ける4・3・2制を採用することとしました。

☆3校交流については、行事交流だけでなく学習の交流を取り入れるなど、来年度の交流や内容を検討し、統合を円滑にしていくようにします。

☆「めざす子ども像」に続き、「めざす家庭像」、「めざす地域像」について検討し、小中一貫教育ビジョン(案)を作成しました。次号以降に紹介します。

「教育環境整備部会」

校名募集の要項や選定方法を協議しました。

☆江山地区にゆかりのある方を対象に、2月に校名を募集したところ、240通の応募がありました。準備委員会では、3月18日に校名案として選考した結果を、市長に報告します。その後、4月に市長より校名案が発表され、6月の市議会に新しい校名が提案される予定です。

☆校歌・校章については、校名決定後に選定方法等を協議していきます。

「江山の宝応援部会」

通学方法と制服について協議しました。

☆バス通学区域として検討しているのは、神戸地区全域と赤子田地区、猪子地区です。横枕地区は、悪天候時に利用します。猪子・横枕線は今年の3月末で日ノ丸バスが廃止となりますが、大和地区で代替え運行を検討中とのことです。バスダイヤについては、生活時程にあわせたダイヤとなるよう日ノ丸バスに要望していきます。

自転車通学については、現時点では、単に学校までの距離だけでなく、部活動の場所や終了時間等を考慮して決めていくこととしました。また、集団登校についても検討していきます。

☆制服については、制服検討委員会を設けて決めていくことにしました。

準備委員会に地域住民の方から提言がありましたので、回答とともに紹介します。

【提言】

☆地域住民が利用できる学校図書館の設置要望がありました。

<回答>教育環境整備部会で校舎の増改築に合わせて検討していきます。

☆隣接する住居跡の活用について、植栽を残して生活科や総合的な学習の時間等で活用してはどうかという提言がありました。

<回答> 隣接する住居跡は、基本的に駐車場として整備する予定としていますが、児童生徒の安全性を考慮して、土地の有効利用を検討していきます。

義務教育学校Q&A

前号では、義務教育学校や小中一貫教育のメリットを考えましたが、素晴らしいメリットがある一方でデメリットや課題もあります。今回は江山地区に新設される小規模な義務教育学校のデメリットと課題とその対策を考えてみたいと思います。

卒業まで人間関係が固定化される

児童生徒数が少なく、クラス替えができないため、入学から卒業まで学年の生徒の顔ぶれが基本的に変わりません。（これは現状でも同じですが。）そのため、人間関係が固定化しやすく、人間関係がこじれた際に立ち直るチャンス、リセットするチャンスが得られにくいことがあります。

そうしたことから、先進校では、ネガティブな方向に向かわないように、少人数を生かして児童生徒と教職員がじっくり向き合い心のケアをしているようです。

小学校卒業・中学校入学といった節目がない

9年間の教育ですので、通常行われる小学校の卒業式、中学校の入学式といった儀式がありません。そこで4・3・2制といったブロック制を活用し、次のブロックに移行するときに、ブロック修了式・ブロック進級式といった行事を行い、節目をつけているところが多くあります。

6年生時の自主性・リーダー性が培えない

小学校においては、6年生が学校の最上級生という自覚のもと自主性・リーダー性を培ってきましたが、その自覚が薄れるという懸念があります。そこで、先進校ではブロックごとの最上級生に、自主性や責任感、リーダー性を培う取り組みが行われています。また、異学年交流を取り入れることで、節目以外の学年においても取り組むことができます。

小1と中3の差が大きい

義務教育学校では小1から中3の児童生徒が同じ校舎で生活します。異学年交流や学年の縦割り活動などを行う場合、小1と中3では発達段階の差が大きく、同じ活動をするためには十分な配慮が必要となります。

施設や設備についても、体格差・学習内容の違いにより、理科室の学習台や手洗い場の高さ等への配慮が必要となります。これについては、安全で快適な学習環境・生活環境となるような施設・設備の整備を行っていきたいと考えています。

まとめ

小中一貫教育を行う義務教育学校のメリットとして、いわゆる中1ギャップの解消、9年間の一貫した教育などが挙げられます。一方でデメリットとして、小学校高学年でリーダーシップが養われづらくなる、人間関係が固定化しやすいなどが挙げられます。

デメリットの解決策については先進校で様々な取り組みをされています。その事例を参考にするとともに日々の教育活動でそのデメリットを少なくしていく努力が必要です。デメリットの対応だけでなくメリットをより有効にするためには、学校だけでなく、学校・家庭・地域と行政との結びつきが必要です。地域の皆様のご理解とご支援・ご協力をお願いします。